

# すごろく土器がみつかった！

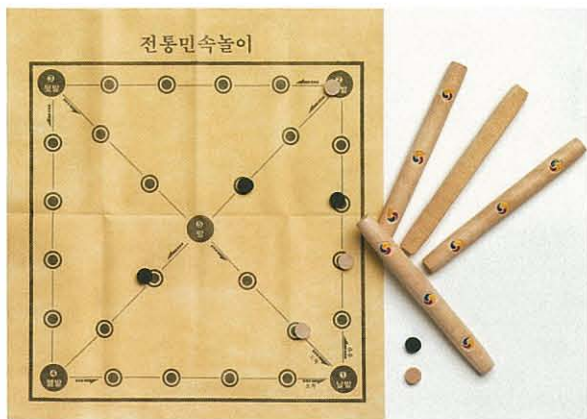


平城京二条大路SD5100出土  
土師器杯(8世紀中頃)原寸大

平城京二条大路の路面上に掘られた溝(SD5100)から出土した、奈良時代中頃の土師器杯の内側には、点が並んで刻まれています。これは、今も韓国で遊ばれている「ユンノリ」という双六に似たゲームで使われる盤面と共通する特徴があり、より古いタイプとみることができます。これまで『万葉集』の研究により、奈良時代にもユンノリに似た「檮蒲」(和名では「かりうち」という遊びがあると推定されてきましたが、この土師器杯はその遊びの盤面として使われた可能性が考えられるのです。

今回、平城京二条大路SD5100出土の土師器杯と、同様の記号をもつ平城宮の穴(SK820)出土の須恵器皿、平城宮東南隅出土の土師器皿を初公開します。この機会に、ぜひ古代の遊びや娯楽の世界をのぞいてみてください。





現代のユンノリの遊具

## ユンノリとは？

ユンノリは、韓国では正月などにおこなわれ、伝統的な遊びとして広く普及しています。1対1の2人、または2組に分かれ、2種類の駒を4個ずつ持って対戦します。出発点から駒を進め、4つの駒を先に1周させた組が勝ち。サイコロと異なり、かまぼこ形の断面の4本の棒（駒）を転がして、表・裏の5種類の組み合わせに従って駒を進めます。

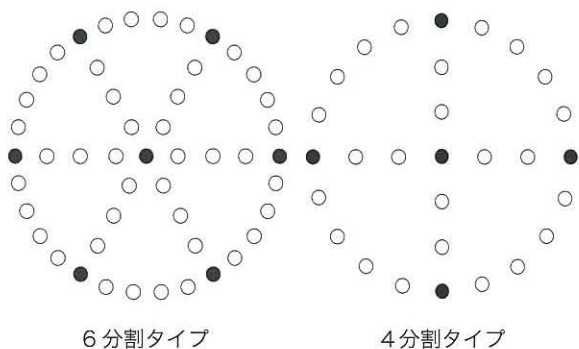
『万葉集』には、「切木四」や「一伏三向」、「三伏一向」など、ユンノリの4本の棒とその組み合わせに関連する表記があることから、奈良時代にもユンノリに似た遊びがあり、広まっていたと考えられてきました。

## 記号の類例とその意味

平城京SD5100 出土の土師器杯と同様の記号は、平城宮・京や秋田城跡など全国で7例確認できます。これらの記号には、円を6分割するタイプと4分割するタイプがあります。4分割タイプの岩手県柳之御所遺跡（12世紀）の例と現代のユンノリの盤面は全く同じ配列であり、平城宮・京の6分割タイプはより古いものと考えられます。6分割タイプの盤面を用いる遊びが、朝鮮半島では4分割タイプへと変化し、現代のユンノリとして遊ばれているものと思われます。

日本ではこの遊びが奈良時代に朝鮮半島から伝わり、一時期は普及していたものの、現代では遊ばれなくなりました。役所跡でみつけることが多いので、この遊びは役人を中心に普及していたのかもしれない。

※実測図は 1 : 4

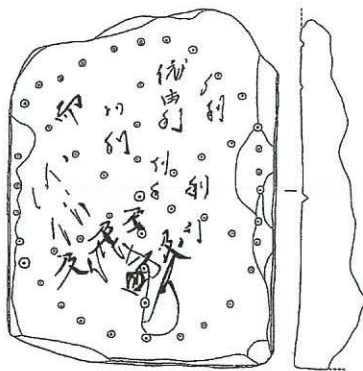


6分割タイプ

4分割タイプ

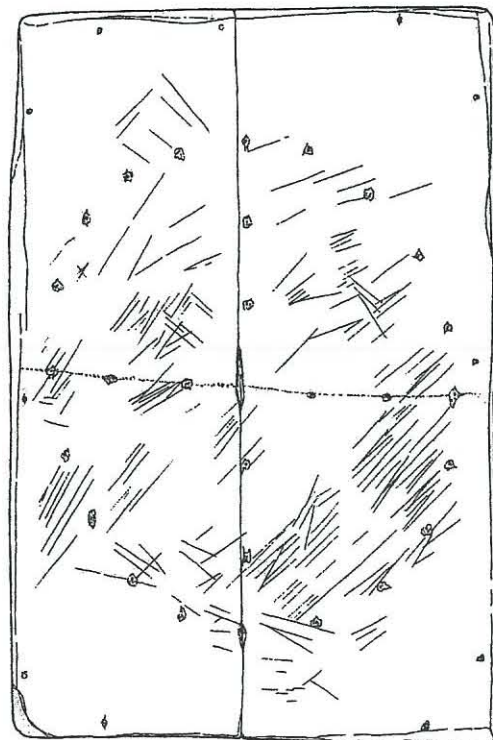


平城宮東南隅出土 土師器皿  
(8世紀中頃～後半)



秋田城跡政庁北東建物出土の磚  
(8世紀中頃)

秋田市教育委員会・秋田城跡調査事務所  
2002『秋田城跡—政庁跡—』より転載



岩手県柳之御所遺跡出土の折敷  
(食器を載せる盆)裏面(12世紀)

岩手県教育委員会 2003『柳之御所遺跡—  
第56次発掘調査概報』より転載



平城宮 SK820 出土 須恵器皿  
(8世紀中頃)

開催期間 2015年7月11日(土)～9月23日(祝・水)  
編集 独立行政法人 国立文化財機構 奈良文化財研究所 都城発掘調査部(平城地区) 企画調整部 展示企画室  
発行 奈良文化財研究所 都城発掘調査部(平城地区)  
〒630-8577 奈良市佐紀町 247-1 <http://www.nabunken.go.jp/>  
発行日 2015年7月11日